

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100248		
法人名	(有) ひまわりライフケアサポート		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	広島県尾道市新浜2丁目8-11 (電話) 0848(38)7630		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3491100248-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

認知症のある高齢者が家庭的な雰囲気の中で生活できるよう、専門職員によりさまざまな介護サービスや、生活の中でのリハビリを行い、笑顔で、焦らず、じっと待つ心でケアを行っています。職員のスキルアップを目標に、今回は、ユマニチュードのケアを心がけました。「ひまわり訪問看護ステーション」とも連携をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームひまわりは、3階建てのビルの2階部分を使用している。1階部分は小規模多機能ひまわりで併設の施設である。利用者皆さん、お一人おひとりが安心して、楽しく笑って毎日を過ごして頂くように、全職員が利用者皆さんの事を考え、仕事に責任を感じ、役割を持ち支援をしている日々の生活の中で、利用者皆さんが出来る力を職員が失くしてしまわないように、待つ介護、働きかけを行なっている。食事準備、片付け、洗濯、掃除など利用者が出来る方は、職員と一緒にやって行なっている。遠出の外出には家族の参加も呼びかけ、家族との繋がりを深めながら思い出作りをしている。落ち着いた雰囲気で大人の生活空間を漂わせる居間では、皆と一緒に体操・ゲームをしたり、テレビを見たりして楽しく過ごしている。又、小上がりの和室があり、横になったり腰かけたり、ボランティアの演舞ステージにも使われている。職員は、お一人おひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週火曜日、職員の夕礼の場で唱和し、確認し合っている。参加出来ない職員には書面に伝えている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念「どんな状況下におかれても、最後まで人は人を見捨ててはならない。」を事務所に掲げ、週に1度小規模多機能型の職員と全員で唱和している。利用者お一人おひとりの思いや暮らし方を尊重し、「ゆっくり・やさしく・いねいに」「早口命令口調には応じかねます」を職場に掲げ、本人の持っている能力を少しでも発揮できるよう、「待つ介護」や「働きかけ」を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方による訪問理容や、ボランティアの訪問、町内の散歩や買い物などで入居者の皆様を知って頂くよう心がけている。職員は、地域の行事などに積極的に参加し、事業所の存在や事業内容を知っていただけるように、地域の方とのコミュニケーションをはかっている。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を入手している。地域の保育園児の来訪・銭太鼓・大正琴・子供の日本舞踊等の披露が有ったり、散歩や買い物に出かけ地域の人たちとの関わりを大切にしている。事業所の夏祭りを町内会長を通じて回覧板にて案内して頂き、地域の人と一緒に楽しみ積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が地域行事に参加し入居者の方にも散歩を兼ねて、町内のゴミ拾いを職員と一緒にこなしていただいている。町内会との交流を通して情報交換・共有を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催し、町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員等、構成員の方から情報を頂きながら、可能な限り情報交換を心がけている。	運営推進会議は年6回2ヶ月に1回開催している。参加者は、尾道市高齢者福祉課・地域包括支援センター・町内会長・民生委員・利用者・家族・管理者・計画作成担当者が参加し、利用者の生活状況・行事の実施状況・今後の行事予定・避難訓練等を報告している。参加者からの質問や助言等を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	担当者の方には、運営推進会議にも参加して頂き密に連絡をとり、報告事項の確認やアドバイスを頂いている。	運営推進会議に、市の介護保険課の担当職員が参加した時に、事業所の抱えている問題や実情を話し合っている。各種申請・報告・研修などの機会や分らない事等を質問したり、普段より市の介護保険課とは密に連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	尾道市が開催する推進研修に参加し、施設内で職員への研修を行っている。	身体拘束については、内部研修の接遇や虐待防止の勉強会で学習し、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用時に本人・家族等には書面で説明し、生命の危険が生じやむをえず拘束を必要とする場合は、家族に十分説明し書面にて承諾を頂き、期間も最小に留めるケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者が指導している。玄関は施錠せず帰りたい利用者へは、不安な気持ちを聞き、気持ち切り替わるようにしたり、寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	気づかない声かけが虐待であることを、職員ひとりひとりが認識するように毎月のミーティングで伝えている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	尾道市・ケアマネ協議会などの推進研修に参加し、施設内で職員への研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約時には、説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に運営推進会議などに参加して頂き、思いを述べていただく機会を作り、面会時や電話などでもご意見・ご要望を伺える体制をとっている。ご要望などは職員間で共有し迅速に対応できるように配慮している。	家族面会時に積極的に会話をし、利用者の近況を報告し、ホームに対する意見・要望を伺っている。本人には、日々の生活の中で意見を聞き出している。運営推進会議では行事の様子や医療連携状況など報告し、要望などを把握し、それらを職員会議で検討し職員全員で共有し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回の社長面談・管理者面談(必要に応じて)を行う。業務の合間や休憩中もコミュニケーションを図るように心掛けている。提案があった時にはミーティングで報告・相談の上、取り込んでいる。	月1回のミーティングや朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、普段から職員とのコミュニケーションを大事にし、お互い信頼関係が築けるよう努めている。職員から出た意見・提案は、管理者・運営者と検討され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員1人1人が意欲的に働けるような環境づくりや整備を行い、子供さんのおられるご家庭には休暇を取りやすい環境にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格習得について奨励し支援を行っている。特に新人の方に対しては、毎月の研修などを実施し、随時、現場での教育を行っている。個人の思いや意見にも発言しやすい環境づくりに努め、みんなで検討するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の介護支援専門研修会などに積極的に参加している。その他の研修会にも参加するように心掛けている。必要研修は社内で行っている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の経歴などを良く知り、ゆっくり・優しく・丁寧にをモットーに話しやすい関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	お話の中でニーズを伺い、出来る限りのサービスの提案・検討を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話の中でニーズを伺い、出来る限りのサービスの提案・検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様も頻りに面会に来てくださり、良好な関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努力している。	家族の協力で自宅へ帰ったり、知人の訪問があったり、ボランティアによる銭太鼓・音楽会・絵手紙・大正琴の披露で地域と交流している。家族が馴染みの美容院に連れて行ったり、近所のスーパーに買物に行ったり、コーヒーショップにコーヒーを飲みに行っている。毎年地域行事として4月にある「お接待」に参加する予定があり、地域の方との交流を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	集団体操には、皆様参加して下さり、午後からはお昼寝される方もふえている。ご本人様の希望の有無、体力による不可などさまざまであるが支援は出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お話の中で表情、言葉、笑顔等によって判断している。	職員は利用者の担当を持っており、日常の行動や表情の中から意向や希望を汲み取るように努めている。家族の来訪時に話を聞いたり、生活歴も参考にしている。意向を自分から伝えにくい人には、入浴時のゆったりとした時や食事中などに話を聞き、思いの把握に努めて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員連絡ノートや、毎日の記録の確認を行い、職員間の連絡も密にとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員連絡ノートや、毎日の記録の確認を行い、職員間の連絡も密にとるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーや各計画担当者と話し、月1回のミーティングにて検討・確認をしている。体調不良などで変更があれば現状に即した計画を作成している。	管理者・職員・計画作成担当者を中心にカンファレンス・モニタリングを毎月1回実施している。計画作成時には、そのカンファレンスの内容に基づく、利用者や家族の要望、かかりつけ医の意見を参考に介護計画を作成している。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実施記録の確認を出勤時に行う。職員間では出勤時に連絡ノートの確認を行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	月1回のミーティングを実施し、検討・確認を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回のミーティングを実施し、検討・確認を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・状態観察・排泄記録・食事摂取量・水分摂取量等を通院時、往診時にお伝えできるようにし、ご家族・主治医とも随時連絡を取るようになっている。	利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としており、週1回から月1・2回往診がある。利用者や家族の希望する皮膚科や耳鼻科の往診もある。かかりつけ医との夜間対応もできている。訪問看護師と連携しており適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	実施記録・職員連絡ノートにて確認のうえ、申し送りをし、連携を取るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャー・看護師などが面会をし、様子をきかせていただき経過についても連絡が取り合えるようになっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ひまわり訪問看護ステーションと連携をはかっている。	「看取り介護に関する指針」があり、契約時に利用者、家族に事業所でできる対応について説明をしている。重度化した場合は家族、医療機関者と話し合い、事業所で出来る事を説明しながら方針を決めて共有し、事業所での看取りと移設を含めての支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の勉強会や、ミーティングの中で確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災時の避難訓練は年2回行っている。水害・地震の災害時には、当施設の3階へ避難をするようになっている。町内では、当施設が避難場所として指定の依頼を受けている。	年2回、昼・夜間を想定し、消防署の協力を得て、小規模多機能事業所合同で利用者も参加し、通報、避難、消火訓練を実施している。消防訓練や災害時のマニュアルを基に、災害時に利用者が安全に避難出来るような体制作りにも努めている。また、地域との協力体制を強化する為に、運営推進会議等を通じて町内会長、民生委員の方等に協力を仰ぎ、災害時の対応策について協議を行っている。近隣の鉄工所の従業員の参加を頂いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様に対しては職員は役者を演じ、目の前の方に笑顔が出るように日々、心がけている。	利用者お一人おひとりの生活歴を把握し尊厳を大切にされたケアを心掛け、言葉掛けなどにも注意を払っている。生活歴などから得られた情報の中で、利用者が触れてほしくない事には配慮している。	事業所としては接遇等の研修を実施している。さらに利用者に満足な生活をして頂く為にミーティングを重ね検討し、レベルアップをしたいと望まれており今後期待したいと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様が発した言葉を大事にし、やさしい声かけを日々、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の状況・ペースに合わせてケアをさせていただいている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選ぶことはされないが、着心地のよいもの、清潔なものを身につけていただくよう気配りをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しみながら食べていただけるように、出来ないことをお手伝いさせていただき、ゆっくり食べていただいている。おやつ作りに参加していただいたり、ミカンなどではできる限り食べていただくようにしている。	季節に合った献立を基にした食材で、1階の厨房で委託業者によって作られた物を配膳している。行事食も提供されている。デザート作りでケーキを作り、ホイップクリームで飾り付けをしたり、たこ焼き・どら焼き・焼きそば等を作って食している。おやつ作りでは利用者は、食材のキャベツの刻みやもやしの芽を取る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取を促すとともに、糖尿食・減塩食・普通食に分けて、体調変化により、キザミ・ミキサー食などにも臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後行い、仕上げ磨きまで丁寧に対応している。入れ歯は、毎夜除菌し、必要な方には歯科往診も受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	希望時と定期的な誘導を行い、排泄チェック表に記録し、その方の間隔パターンで誘導を行い、立位のできる方や、ご自分でパンツを下げようとする意思・動作があれば、待つように心がけている。女性の方は、毎回、陰部洗浄を行っている。	排泄チェック表に記録して、お一人おひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導等を行っている。トイレに行く事も生活リハビリと捉えて立位・移動等できる限り実施している。状態により難しいケースもあるが、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘しやすい方には、水分補給と運動を促し、10mの廊下を往復しトイレに行くようにしている。排泄チェック表にて服薬管理を行い、適宜排便・浣腸などを医師の確認のもと行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週間入浴日は決めてあるが、身体状況や、気が進まないなどの気分に応じて臨機応変に対応させていただいている。	基本的には週2回以上の入浴だが、その日その時の体調や気分によって臨機応変に対応している。意思表示が困難な方に対しても、状態を観察しながら入浴を支援している。入浴を拒否する方には無理強いせず、特定の職員に絞ったり、時間をずらす等の工夫をし、利用者全員に入浴して頂いている。排泄等での失敗の場合には、随時シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様に合わせて支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセッティングは職員が行い、飲んでいただく時は介助にて飲んでいただき、飲み込まれた確認を行っている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様に合わせて支援させていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様に合わせて支援させていただいている。	利用者の体調を見ながら天気の良い日には、車椅子で近隣の海辺まで行き、港を眺め思いにふけったり、D51公園へ散歩したり、コンビニエンスストアに買物に出かけている。ドライブで千光寺公園にお花見に行ったり、備後運動公園に紅葉狩りに出かけている。又、外食をするために回転すし・レストランに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の管理は行っていない。必要時は、施設で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月のご様子が分かるように、担当職員より手紙と写真入りのひまわり新聞を送っている。ご本人が絵手紙などを描かれた時には、ご家族あてに送らせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに室内の飾りつけや壁飾り、行事・食事等を楽しんで頂けるよう演出をしている。常に清潔を心がけて、環境整備には気を配っている。	居間兼食堂は明るく、温度・湿度の管理が出来ており、テーブルや椅子、ソファ、テレビなどが配置されている。季節の花を生けている。壁面には折り紙・貼り絵等利用者の作品を掲示し季節感を採り入れている。居間兼食堂の一角には、小上がりの和室があり、横になったり腰かけたり、ボランティアの演舞ステージにも使われている。日中はほとんどの利用者が集まっている。利用者同士の関係を考えて席を決めているので、仲良い同志の会話も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを見たい方、皆様と一緒に居たい方、横になりたい方、本を読みたい方等おられ、ご希望や様子に合わせた工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的にご家族様・ご本人様できめていただき、生活の中で安全上問題があれば、ご家族に報告し、了承を得たうえで、配置を変える事もある。	利用者は居室に整理ダンス・椅子・収納ケース・洋服かけ・テレビ・本・置時計・ぬいぐるみ等、使い慣れたものや好みのもの（カレンダーや家族の写真、自分の作品等）を持ち込んで、安心して過ごせるように工夫している。又、温度、湿度、換気等に配慮し、居心地よく過ごせるな工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その場その場に合わせて工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームひまわり

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成 29 年 3 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	気づかないうちの失礼な声かけを減らしたい。	入居者様が笑顔になる声かけを行う。	ミーティングで周知徹底する。 職員間で、注意し合う。	半年～1年
2	38	精神疾患がありご自分で出来るにも関わらず依存される方への対応。	出来ていることを維持する。	やる気になるようなやさしい声かけを行う。 出来る事は時間がかかってもしていただく。	半年～1年
3	25	車椅子を使われる方が多くなっている。	歩ける方の維持。	トイレ誘導時など歩く距離を伸ばす。	半年～1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。